

令和元年度 第8回 横浜市民間資金等活用事業審査委員会 議事録	
日 時	令和2年3月18日(水) 10時00分～11時30分
開 催 場 所	松村ビル別館503会議室
出 席 者	委員：齋藤真哉委員長、山口直也委員、黒石匡昭委員、吉田育代委員 政策局共創推進室(事務局)：梅澤室長、森脇担当課長、藤井担当係長 ほか
欠 席 者	原悦子委員
開 催 形 態	公開
次 第	1 議事 (1) 終了PFI事業における事業手法効果検証について(審議) (2) 終了PFI事業の検証の方法について(協議) (3) その他
議 事 概 要 (要 旨)	<p>(1) 終了PFI事業における事業手法効果検証について(審議)</p> <p>事務局から資料1の説明を行い、審議を行った。</p> <p>○委員：報告書7(1)について、ここに記載されている計画とは、市側の予測・計画ではなく、あくまで事業者が提案した計画であるので、その点は誤解が生じないよう配慮した文章とするべきである。</p> <p>後段の改良土の生産量が大幅に増加し、焼却灰の有効利用が促進されたことが一番のポイントで、その点は強調して記載した方がよい。「焼却灰の有効利用」といった独立した項目で記載してはどうか。直営時とPFI事業期間中の改良土生産量のデータを示してもらい、焼却灰の有効活用がPFIを導入したことで大幅に進んだということをもまず記載した方がよい。</p> <p>○委員：別紙の間12に関して、「施設の隠れた瑕疵など不要なリスク」という記載となっているが、本施設はこれまで稼働していた既存施設に増設したものであるため、瑕疵ではなく「認識できない施設の劣化リスク」とした方がよい。本文7(2)にも反映すること。</p> <p>○委員：公共側の視点が中心の報告書となっているが、PFI事業者側の本事業を実施した効果やメリットについて、本文のどこかに記載してはどうか。本文8の前段で触れるなど、記載箇所は検討してもらいたい。</p> <p>○委員：PFIを導入して、プラスの効果があつたことを、「一定の効果」といったような曖昧な表現ではなく、はっきりと書いた方がよい。</p> <p>○委員：7(4)の記載は気になっている。「変動単価の設定にあたっては～合理的な判断がなされたと評価する。」とポジティブな書き方がされているが、この記載で良いかは疑問である。契約延長時に、マーケットが変化して需要リスクを市側もシェアするという当初契約とは異なる枠組みに変更しており、契約内容が変わっているのだから新たに公募をすべきではなかったのかという見方もされる。このような対応を行ったことの説明責任が行政側には求められる。結果としては、延長期間のPFI事業者の収支が赤字と黒字を繰り返しており、過度な利益は出しておらず、利益供与に当たらず誠実な交渉がされたと推察はされるが、当時の検討と意思決定がどのようになされたか検証する必要がある。</p> <p>もしその辺りを書けないとすると、適切にリスク移転ができた、と書くのは乱</p>

暴ではないか。ガバナンス視点からすると、事後の検証ができていない点は足りなかったと思う。今後の課題として残しておくべきだと思う。

○委員：変動単価に変更することによる、市の損失分については東電への賠償請求をするため、実質的に損害はないのだと言いたいということかと思う。

●事務局：おっしゃる通りである。加えて、そもそも近隣自治体の需要がない場合は、市の直営では成立せず、需要がある場合は、市の直営でも成立するという試算はしていた。一方、最低価格の¥5,000を基準にして、どれくらいの改良土の販売量であれば、利益が出るのかという検討では、約8万8千m³を下回るとランニングコストさえ賄えないという結果であった。単価設定はPFI事業者からの提案であったが、市も需要予測と利益がどこまで出るのかというところを検討して、その設定が適しているのではないかと判断した。

○委員：文章の表現の問題もあるかと思う。7(4)については、リスクを市が負担したというよりも、リスクを調整したということであろう。そのような表現に全体的に修正してみてはどうか。

○委員：口頭説明での補足により、検討はある程度やっているのだろうなという感覚はもてるが、やはり大きな話なので、契約延長時における検討プロセスの説明について、追記の必要があると思う。

●事務局：どこまでの内容を書けるか事業所管課と調整する。

○委員：変動単価の設定がいい加減ではないことが分かればよい。

○委員：結果良かったということではなく、シミュレーション時の近隣自治体の需要が分からない段階で、焼却灰の価格設定が最低でも¥5,000でないと事業継続ができないと市が判断したということであり、事業継続に重きを置く場合に、事業者が途中で撤退してしまうことを避けるために、その方策として、変動単価を導入したという趣旨を書いてもらおうと良いのではないか。

変動単価にした理由が書かれていないので、近隣自治体の需要予測ができないから変動単価を導入したと書いてもらいたい。

○委員：リスクシェアをしてまでも事業継続をする方が、お互いにメリットがあるから、変動単価を導入したのだ、と記載する必要がある。

●事務局：市としては、建設発生土と焼却灰の有効利用を進めたいということが、事業を継続した一番大きな理由である。

○委員：先ほど指摘のあったように、改良土の生産量が増加し、焼却灰が有効利用されたということが一番に強調すべきである。

○委員：生産のノウハウだけでなく、営業販路の拡大といったところも含めて、PFIによる実施で効果があったと書いた方が良いと思う。

○委員：本文の焼却灰販売収入の計画と実績は、当初の10年間と延長時の5年間のそれぞれを記載し、合計の15年間を示す必要はない。

○委員：7(2)増設計画に関して、「公募の段階で適切に情報を開示した」とあるが、どう適切だったかを具体的に書くべきで、文章を整理すること。

○委員：8 今後のPFI事業実施に向けての項目で、施設の劣化リスクについては、きちんと書いた方がよい。直営で一定期間稼働させた施設をPFI等で民間に維持

管理・運営を任せる場合は、施設の劣化情報を適切に開示する必要がある。PFI事業者が本来負う必要がないリスクを引き受けないように、市が自らデューデリジェンスを実施し、施設の劣化状況を把握するというのがポイントになる。直営だけではなく、PFI事業期間が終わったあとに、改めて民間事業者に維持管理を委託する場合も同様で、元々のPFI事業者が施設情報を適切に記録しておくことが必要である。

○委員：増設計画について「適切」とあるが、他施設での実績を基にした需要予測に基づく計画であったという理解で良いか。

●事務局：その通りであるので、分かりやすく文章を整える。

○委員：効果検証にあたって、資料の存否が重要であると書いているが、単に資料があるだけではなく、検証に役立つように整った形で保存してもらうということを盛り込んでもらいたい。

○委員：別紙 問4で、放射性物質の影響により、改良土への汚泥焼却灰の規定量を下回る添加がいつからいつまで続いたのか、追加してほしい。

●事務局：確認して追記する。

○委員長：修正案については、事務局と私の方で調整するので、公表前に委員の皆様を確認してもらうということよろしいか。

○委員一同：了承。

○委員長：それではそのようにさせてもらう。

(2) 終了PFI事業の検証の方法について（協議）

事務局からの資料2の説明を行い、意見交換を行った。

○委員：今後、検証を控えている十日市場小学校やサイエンスフロンティア高校については、サービス受益者の意見を聞くことが重要である。PFI事業期間中に施設を利用していた教職員にも本委員会からヒアリングができると良い。事業所管課、PFI事業者、教職員へのヒアリングを同日にできるのであればそれでも良いが、スケジューリングとともに、ヒアリングの順番は考えてもらいたい。

●事務局：教職員へのPFI委員会からのヒアリングの可否については、人事異動なども考慮して検討する必要があると思っている。事業が終了する前にヒアリングすることも検討したい。

○委員：事業所管課とPFI事業者の関係性は事業によって異なるが、委員会としては、中立的な立場で公正な評価ができると良い。そのためには共創推進課の前さばきが必要になってくると思うが、どのように進めていこうと考えているか。

●事務局：今年度の検証では、PFI事業者からの報告は、事業所管課を通して自ら作成してもらったが、来年度以降は、共創推進課が直接PFI事業者にヒアリングする形とし、当課も積極的に関わりながら、PFI事業者の意見を把握したいと思っている。加えて、学校関係者には既に事業所管課と当課とで、ヒアリングを実施したので、その結果を実施報告書にまとめたいと考えている。

また、所管課の今後の事業の方向性や考え方にとらわれず、客観的に評価・検証ができるよう、共創推進課がハンドリングする必要があると思っている。

	<p>○委員：今の発言は重要で、モニタリングに第三者的な視点が入り、政策の意思決定が理にかなったものとなることが最も大事である。</p> <p>○委員：まずは共創推進課が関係者にヒアリングして結果をまとめたうえで、更に委員会でヒアリングするという２段階が良いと思う。</p> <p>○委員：PFI 事業としての評価と、事業を継続するか否かは分けて考えるべきである。十日市場小学校の場合、事業の特性から効果を数字で表すのは難しいと思うが、サービスの質をあげるという類の事業であると思う。可能であれば、PTA の方にアンケートなどを取ることも有効と考える。</p> <p>○委員：本効果検証は、今後の PFI 事業実施に向けたノウハウ蓄積が目的のため、終了後のタイミングで実施しているが、PFI 事業終了後の手法決定前に検証をすべきという話になるかもしれない。</p> <p>○委員：担当職員にとってもメリットがあったという検証結果を庁内に積極的に PR してもらおうと良いと思う。</p> <p>(3)その他 特になし。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
資 料	<p>1 資料</p> <p>(1) 会議 次第</p> <p>(2) 委員名簿</p> <p>(3) 委員会 運営要綱</p> <p>(4) 諮問文</p> <p>(5) 資料 1：P F I 事業手法効果検証報告書（案）[本文及び別紙]</p> <p>(6) 資料 2：終了 PFI 事業の検証の方法について</p>